

講 義 概 要

•

授 業 計 画

科目名 空海 の 思想 入門	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：弘法大師空海の密教思想を学ぶための基礎的な知識を身につける テーマ：弘法大師空海とその密教思想
	授業の概要 本講義は文学部共通の「建学の精神」科目で、全学生必須である。本学でどのような分野を専攻するにしても、最初に弘法大師空海とその密教思想の概要を学んでおくことは、弘法大師の教育理念に基づく高野山大学で学ぶことの意義を確認でき、より実り多い勉学生活を過ごすことが可能であるからである。大師の著作のいくつかを具体的に取りあげて概観し、大師の密教思想を学ぶ。
	授業計画 1. はじめに (オリエンテーション) 2. 密教の種々相 (日本密教とチベット密教) 3. 高野山の開創とその意義 4. 弘法大師の生涯 (略説) 5. 大師の教育観 (『綜芸種智院式』) 6. 三教の比較思想論 (『譬譬指帰』『三教指帰』) 7. / 8. 真言密教の相承者の系譜と伝記 (『広付法伝』『略付法伝』) 9. 顕教と密教 (『弁顯密二教論』) 10. / 11. 密教の成仏論 (『即身成仏義』) 12. 十段階の心のあり方 (『十住心論』『秘藏宝鑰』) 13. 密教経典としての般若心経 (『般若心経秘鑰』) 14. / 15. 大師の戒律思想 (『三昧耶戒序』『梵網経解題』)、おわりに(まとめ)
	学期
	前期
	単位数
	2
	担当者
	藤田光寛
	学生に対する評価 期末のレポート試験 (60%)、出席 (20%)、小テスト (20%) によって評価する。

テキスト
授業中に適宜指示する

参考書・参考資料等
① 松長有慶「密教」(岩波新書)
② 「弘法大師空海全集」(筑摩書房) など
授業中で適宜指示する。

学生に対する評価
期末のレポート試験 (60%)、出席 (20%)、小テスト (20%) によって評価する。

その他
毎回休まずに出席することを望みます。少なくとも、授業実数の三分の一以上欠席すれば失格です。
担当者のメールアドレスは fujita@koyasan-u.ac.jp です。質問などに遠慮無く利用して下さい。

科目名 英語 I A	授業の到達目標及びテーマ 到達目標： テーマ：基礎的な読解能力 基本的な英文法を再確認するとともに、易しい英文を読み読解力を養う。
	授業の概要
	授業計画 【前期】 1. 予習、復習、授業の進め方について説明する。 2. 文の種類 3. 同上 4. 動詞の種類と文型 5. 同上 6. 動詞 (時制) 7. 同上 8. 助動詞 9. 同上 10. 能動態と受動態 11. 同上 12. 名詞 13. 同上 14. 冠詞と数詞 15. 同上 【後期】 1. 代名詞 2. 同上 3. 接続詞 4. 同上 5. 前置詞 6. 同上 7. 形容詞・副詞 8. 同上 9. 比較 10. 同上 11. 不定詞 12. 同上 13. 分詞 14. 同上 15. 動名詞
	学期
	通年
	単位数
	2
	担当者
	高倉正行
	学生に対する評価 出席状況と授業態度、前期後期試験を加味して行う。

参考書・参考資料等

学生に対する評価
出席状況と授業態度、前期後期試験を加味して行う。

その他

科目名 英語 I B	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：1年間の授業で、それまでコマ付きの自転車に乗っていた子供が、コマを外してしばらく練習した後で、「今コマ無しで走っているよ」と実感できるような、その程度にまでもっていく。 テーマ： 【前期】 高校までに習った英語を活性化させる。 【後期】 英文法の初歩習得
	授業の概要 受講生は誰もが最低限6年間の英語学習を経ているはずである。本授業では受講生に関わった中学・高校英語教師の努力に報いるために尽力する。つまり勉強した事柄の想起・活性化・定着である。
	授業計画 テキストに沿って行う。
	学期
	通年
	単位数
	2
	担当者
	静春樹
	学生に対する評価 前期テスト (50%)、後期テスト (50%)。出席日数が足りている学生のみ受験可能。

参考書・参考資料等
必要に応じて指示

学生に対する評価
前期テスト (50%)、後期テスト (50%)。出席日数が足りている学生のみ受験可能。

その他

科目名 英語 I C 1 (再履修) + 英語 I C 2 (再履修)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標： テーマ：英文の基本的構文の習得
	授業の概要 基礎英文法を学ぶ。
	授業計画 【前期】 1. 授業の進め方、評価の仕方、予習・復習の仕方等について説明。 2. 動詞と文型 3. 同上 4. 文の種類 5. 同上 6. 動詞と時制 7. 同上 8. 完了形 9. 同上 10. 態 11. 同上 12. 不定詞 13. 同上 14. 動名詞 15. 同上 【後期】 1. 分詞 2. 同上 3. 分詞構文 4. 同上 5. 比較 6. 同上 7. 関係詞 (1) 8. 同上 9. 関係詞 (2) 10. 同上 11. 仮定法 12. 同上 13. 時制の一致と話法 14. 同上 15. 総括
	テキスト Mastering Grammar Basics (堀口貫治、桐原書店) ISBN 978-4-342-55220-5
	参考書・参考資料等
学期 前期 通年 後期	単位 1 2 +
担当者 高倉正行	学生に対する評価 出席状況と授業態度、前期試験・後期試験を加味して行う。 その他

科目名 英語 II A 1 (TOEIC) + 英語 II A 2 (TOEIC)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標： テーマ：長文を読みこなす。
	授業の概要 現代日本の身近な文化を述べた英文を読んだ後、理解度を深める練習問題をやっていきます。
	授業計画 【前期】 1. 予習、復習、授業の進め方について説明する。 2. The Silver Screen 銀幕が観て来た映画館 3. 同上 4. Queen Himiko 現代の早稲呼たち 5. 同上 6. Leading the Way リサイクル先進国 7. 同上 8. Lunch in a Box お楽しみは弁当箱の中に 9. 同上 10. Discovering the Art of Wrapping 包んで魅せる日本 11. 同上 12. Made in Japan 日本製のアイディアを世界へ 13. 同上 14. This is for You 気持ちを贈る 15. 同上 【後期】 1. Picture Theater 紙芝居がやって来た！ 2. 同上 3. Stay on the Left 刀が運びし左側通行 4. 同上 5. Memory Lane 郷愁を誘うものたち 6. 同上 7. Food for the Soul 音楽は心の栄養素 8. 同上 9. An Ancient Sport 歴史を受け継ぐ相撲 10. 同上 11. Art is Explosion, Art is Magic! 芸術は爆発だ！ 12. 同上 13. From War to Peace 城に見る日本の変遷 14. 同上 15. The Sneezing Season 春は花粉と共に
	テキスト Eyes on Japan (金星堂、英米文化学会 編) ISBN 978-4-7647-3918-5
	参考書・参考資料等
学期 前期 通年 後期	単位 1 2 +
担当者 高倉正行	学生に対する評価 出席状況と授業態度、前期後期試験を加味して行う。 その他

科目名 英語 II B (TOEIC) + 英語 II B 2 (TOEIC)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標： 【前期】「文法」つまり基本的な「文のしくみ」に焦点を合わせる。 【後期】英語に限らずすべての言語は「音声」「文法」「語彙(単語力)」の三つのアプリケーションから成ると言っても過言ではない。授業では「文のしくみ」に焦点を合わせる。 テーマ： 【前期】高校までに習った英語を活性化する。 【後期】英文法の初歩習得。
	授業の概要 授業計画が成立するのは受講生の習得水準が一定の幅に揃っている場合である。本授業の場合、プレースメントテストがなく、およそ「不揃いな受講生」を相手にしなければならない。従って、授業はあくまで各受講生の力に合わせた個別的な指導となる。 勉学の基礎は自学自習である。教師は各受講生の力量・つまづきの箇所・壁を判断し個別に指導する。
	授業計画 テキストをユニット0から各自が徹底的に勉強し、教師に理解したと判断された場合に次のユニットへ進む。
	テキスト 南雲堂 First Voyage (大学基本英文法&リーディング)。テキストを持たない学生の受講は認めません。
	参考書・参考資料等 必要に応じて指示
学期 前期 通年 後期	単位 1 2 +
担当者 静春樹	学生に対する評価 出席点 (50%)、期末テスト (50%) その他 「文の仕組み」は人体に喩えると、骨格に相当します。習得言語の場合 (母語でないこと)、これをインストールしないと自力で歩くことが出来ません。

科目名 英語 II C 1 (再履修) + 英語 II C 2 (再履修)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標： テーマ：英文の基本的構文の習得
	授業の概要 英文の基本構造を学びつつ、沢山の練習問題を行います。
	授業計画 【前期】 1. 不定詞 (1) 2. 不定詞 (2) 3. 分詞 4. 動名詞 5. 動名詞と不定詞 6. 時制 7. 未来時を表す表現 8. 進行形 9. 完了形 10. 態 11. 仮定法 (1) 12. 仮定法 (2) 13. 比較構文 14. 否定 15. 名詞 【後期】 1. 代名詞 (1) 2. 代名詞 (2) 3. 形容詞 4. 冠詞 5. 数量詞 6. 副詞 7. 動詞 8. 法助動詞 (1) 9. 法助動詞 (2) 10. 前置詞 (1) 11. 前置詞 (2) 12. 前置詞 (3) 13. 接続詞 14. 関係詞 (1) 15. 関係詞 (2)
	テキスト A Communicative Grammar of English (友繁義典、南雲堂) ISBN 978-4-523-17654-1
	参考書・参考資料等
学期 前期 通年 後期	単位 1 +
担当者 高倉正行	学生に対する評価 出席状況と授業態度、前期試験・後期試験を加味して行う。 その他

科目名 医学一般 I	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：医学一般の医学知識の勉学 テーマ：「医学概論」医学の役割、医学の内容理解
	授業の概要 近代医学発展の歴史概観と人体の仕組み
	授業計画 1. 医学の歴史 2. 近世・近代日本の現状 3. 医学の原点 4. 医学概論序説 5. ヘルスサイエンス・生命の長寿 6. 健康と病気 7. 健康診断・人間ドック 8. 臨床医学 9. がん医療 10. 生活習慣病・メタボリックシンドローム 11. 高齢者医療 12. 社会医学 13. プライマリケア、リハビリテーション医学 14. 生命倫理・救命救急医療・自死・死別の悲嘆ケア 15. 試験（筆記）
	テキスト 特に無し
	参考書・参考資料等 特に無し
	学生に対する評価 レポート・採点による。
	その他
	学期 前期
	単位数 24
	担当者 谷 庄 吉

科目名 日本語 A・B・C	授業の到達目標及びテーマ 他人の言いたいことを的確に把握できるようにすること、自分の言いたいことを的確に展開できるようにすること。
	授業の概要 大学では、多くの専門的な本を読み、それをもとにレポートを書き、最終的には卒業論文に取り組みます。そのためには専門的知識を身につけると共に論理的に構成された文章を、正確に把握できるようにすることが不可欠です。この講義では新入生を対象として、そのためのトレーニングを実施します。
	授業計画 【前期】 1. ガイダンス 2. 「自分史」を書く 3. 「自分史」を読む・聞く 4. 文章読解の練習(1) 一漢字の役割 5. 文章読解の練習(2) 一辞書の使い方 6. 文章読解の練習(3) 一文のつながり方その1 7. 文章読解の練習(4) 一文のつながり方その2 8. 文章読解の練習(5) 一文のつながり方その3 9. 文章読解の練習(6) 一文のつながり方その4 10. レポートの作り方(1) 11. レポートの作り方(2) 12. レポートの作り方(3) 13. レポートの作り方(4) 14. レポートの作り方(5) 15. 他人のレポートを読んで意見を述べる
	【後期】 1. ガイダンス 2. 自分の意見を書く(1) 一必要な材料の収集 3. 自分の意見を書く(2) 一言いたいことの整理 4. 自分の意見を書く(3) 一予想される反論 5. 自分の意見を書く(4) 一インパクトのある構成 6. 自分の意見を書く(5) 一実際に書いてみる 7. 引用のポイント(1) 一複数の他人の意見を紹介する 8. 引用のポイント(2) 一フェアな紹介とは 9. 引用のポイント(3) 一フェアな批判とは 10. 引用のポイント(3) 一引用と自説の展開 11. レポートの作り方(1) 12. レポートの作り方(2) 13. レポートの作り方(3) 14. レポートの作り方(4) 15. レポートの相互批評
	テキスト 大学で用意したものを配布します。
	参考書・参考資料等 国語辞典・漢和辞典を持参してください(電子辞書も可)。
	学生に対する評価 出席40%、課題提出40%、課題のできばえ20%で評価します。
	その他 この授業で練習することは、これからの勉強だけでなく、卒業前の就職準備、社会人になってからの色々な場面で応用できることです。自分から積極的に活用して行って下さい。 ・トレーニングは大変かもしれませんが、その成果は必ずみなさんの財産になります。へこたれず、楽しくやっていきましょう。
	学期 前期
	単位数 24
担当者 C.B.A. 山南 藤吉 山脇 雅夫	

科目名 日本語 I D (再履修)	授業の到達目標及びテーマ 他人の言いたいことを的確に把握できるようにすること、自分の言いたいことを的確に展開できるようにすること。 ※2回生以上で日本語を未修の者は、このクラスを受講すること。
	授業の概要 大学では、多くの専門的な本を読み、それをもとにレポートを書き、最終的には卒業論文に取り組みます。そのためには専門的知識を身につけると共に論理的に構成された文章を、正確に把握できるようにすることが不可欠です。この講義では新入生を対象として、そのためのトレーニングを実施します。
	授業計画 【前期】 1. ガイダンス 2. 「自分史」を書く 3. 「自分史」を読む・聞く 4. 文章読解の練習(1) 一漢字の役割 5. 文章読解の練習(2) 一辞書の使い方 6. 文章読解の練習(3) 一文のつながり方その1 7. 文章読解の練習(4) 一文のつながり方その2 8. 文章読解の練習(5) 一文のつながり方その3 9. 文章読解の練習(6) 一文のつながり方その4 10. レポートの作り方(1) 11. レポートの作り方(2) 12. レポートの作り方(3) 13. レポートの作り方(4) 14. レポートの作り方(5) 15. 他人のレポートを読んで意見を述べる
	【後期】 1. ガイダンス 2. 自分の意見を書く(1) 一必要な材料の収集 3. 自分の意見を書く(2) 一言いたいことの整理 4. 自分の意見を書く(3) 一予想される反論 5. 自分の意見を書く(4) 一インパクトのある構成 6. 自分の意見を書く(5) 一実際に書いてみる 7. 引用のポイント(1) 一複数の他人の意見を紹介する 8. 引用のポイント(2) 一フェアな紹介とは 9. 引用のポイント(3) 一フェアな批判とは 10. 引用のポイント(3) 一引用と自説の展開 11. レポートの作り方(1) 12. レポートの作り方(2) 13. レポートの作り方(3) 14. レポートの作り方(4) 15. レポートの相互批評
	テキスト 大学で用意したものを配布します。
	参考書・参考資料等 国語辞典・漢和辞典を持参してください(電子辞書も可)。
	学生に対する評価 出席40%、課題提出40%、課題のできばえ20%で評価します。
	その他 この授業で練習することは、これからの勉強だけでなく、卒業前の就職準備、社会人になってからの色々な場面で応用できることです。自分から積極的に活用して行って下さい。 ・トレーニングは大変かもしれませんが、その成果は必ずみなさんの財産になります。へこたれず、楽しくやっていきましょう。
	学期 前期
	単位数 24
担当者 藤 吉 圭 二	

科目名 現代思想 哲学 I (別)	授業の到達目標及びテーマ 到達目標： テーマ：人々の哲学
	授業の概要 「人間」と書いて「人間」と読むことは、私たち人間にとって他の人とのかわりか本質であることをよく示していると思えます。この授業では、人間関係に関する哲学的問題を中心に、現代に生きていくために必要な思想は何かを考えます。
	授業計画 1. 赤ちゃんの人間認識 2. 対人関係と言葉 3. 自他の境界 4. いじめ 5. 「自分」の定義 6. 「愛」の諸相 7. 聴くことの方 8. 理解と誤解 9. 自己犠牲は可能か？ 10. 待つことの意味 11. 人間関係と時間 12. 死者との共存 13. 切れ字の存在論 14. 実存 15. 住まうこと
	テキスト なし。
	参考書・参考資料等 授業中に指示。
	学生に対する評価 期末テスト65点、小テスト20点、出席点15点
	その他
	学期 前期
	単位数 2
	担当者 山脇 雅 夫

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：人間を宗教とのかかりから捉えてみる。 テーマ：いのちと祈りのさまざまな顕れ
人間と宗教	授業の概要 ひととはただ人間としてだけ生きる存在ではない。その根源のより高貴ないちを生かすためのものでもある。宗教、思想、文化といういのちの営みは、より良い生存のあり様を祈るものである。さまざまな宗教が人間の歴史にどう関わり、何を求めてきたかを、いのちもしくは霊性の生かし方、という観点から見ていきたいと思う。
学期	授業計画 序-1 人間のいのちと霊性 序-2 宗教といのち I. さまざまな宗教 I.1. 神、神々と人間 II. 真理と聖 II.1. 聖なるいのち II.2. 聖性の顕れと人間 III. 教えとコミュニティー III.1. 聖人と弟子集団 III.2. 人間の営みと社会
後期	
単位数	2
担当者	テキスト 岸本英夫 著「世界の宗教」、大明堂（※生協扱い） 参考書・参考資料等 棚次正和・山中弘：『宗教学入門』、ミネルヴァ書房、¥2940（※生協扱い）
生井智紹	学生に対する評価 授業参加状況50% 期末試験50%とし、計100点満点中60点以上を合格とする。 その他 パワーポイントによるプレゼンテーションを中心にして授業を進める。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：仏教思想の基礎を習得することを目標とする。 テーマ： 最古の仏典から釈尊の教えを学ぶ
ブツダの思想入門	授業の概要 釈尊という実在した人物が創始した仏教の原形は、長い歴史に埋もれ変容した部分が多くある。授業では今一度、釈尊の教えに耳を傾け、教えの意図を正確に理解し、現代的な意義を見つめ直す。特に最古の仏典といわれる『スッタニパータ』の「彼岸に至る道の章」について、パーリ語原典と現代語訳を付き合わせながら熟読し、仏教最古の教えを再発見する。
学期	授業計画 1. 導入 2. 原始仏典概説 (1) 3. 原始仏典概説 (2) 4. 釈尊の教え (1) 5. 釈尊の教え (2) 6. 釈尊の教え (3) 7. 釈尊の教え (4) 8. 『スッタニパータ』を読む (1) 9. 『スッタニパータ』を読む (2) 10. 『スッタニパータ』を読む (3) 11. 『スッタニパータ』を読む (4) 12. 『スッタニパータ』を読む (5) 13. 『スッタニパータ』を読む (6) 14. 『スッタニパータ』を読む (7) 15. 総括
前期	
単位数	2
担当者	テキスト 授業において指示します。 参考書・参考資料等 中村 元「ブツダのことば」岩波文庫。 並川孝儀『書物誕生、あたらしい古典入門・スッタニパータ』岩波書店。
加納和雄	学生に対する評価 授業中の発表など30%、出席30%、テスト40% その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：「スピリチュアルケア」の前世紀末（1990年代）からの流れを学び、今後の展望について自らの考えを見出すこと テーマ：スピリチュアリティとケア
スピリチュアルケア入門	授業の概要 個人に係わるスピリチュアリティの問題と、社会的合意形成の許で組織される集団の実効性を待って初めて機能するケアの問題、言わば、個人と社会との関係性の問題を基本的な視点に据え、仏教・密教の教えの観点から、「スピリチュアルケア」について概説する。
学期	授業計画 1. 導入（「共感」する/できる/し合う、ということについて） 2. 「スピリチュアルケア」という考え方の歴史的流れについて 3. 「ケア」の安全網から抜け落ちる人々について（「無縁死」「孤族」という造語について） 4. （同上） 5. スピリチュアリティについての概説（「仮想スピリチュアリティ」という考え方についてなど） 6. （同上） 7. ケアについての概説（「介助」・「介在」の「介」と“being with”についてなど） 8. （同上） 9. グリーフ・ケア（悲嘆へのケア）について 10. （同上） 11. 「無縁死」と葬送儀礼に係る今日的課題について 12. （同上） 13. 仏教的観点から見た、何を畏れることなく生きて行けば良いのかという視点について 14. まとめ 15. 学期末試験
前期	
単位数	2
担当者	テキスト 特に指定しない。参考資料を、適宜、コピー配布する。 参考書・参考資料等 授業の中で適宜紹介する。
室寺義仁	学生に対する評価 学期末の論述試験（60%）と、平常点（40%：個々の授業内容に対する短い感想文の提出を適宜求める）をもって評価する。 その他

科目名 十巻章素読Ⅰ	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：新・旧の漢字に関する区別や理解ができ、漢文を読めるようになることや高野山の伝統的な読み方に熟達することを目的とする。 テーマ：『秘蔵宝鑑』上巻の素読
	授業の概要 素読とは、古典の原文を幾度となく繰り返して読み、それを書物を用いなくて誤りなく言うことができる学習法の一つ、と辞書などに紹介されている。真言宗で古来から行われてきた方法によって、弘法大師の思想に直接触れることにする。
	授業計画 1. 講義内容の説明 2. 『秘蔵宝鑑』上巻の素読① 3. 『秘蔵宝鑑』上巻の素読② 4. 『秘蔵宝鑑』上巻の素読③ 5. 『秘蔵宝鑑』上巻の素読④ 6. 『秘蔵宝鑑』上巻の素読⑤ 7. 『秘蔵宝鑑』上巻の素読⑥ 8. 『秘蔵宝鑑』上巻の素読⑦ 9. 『秘蔵宝鑑』上巻の素読⑧ 10. 『秘蔵宝鑑』上巻の素読⑨ 11. 『秘蔵宝鑑』上巻の素読⑩ 12. 『秘蔵宝鑑』上巻の素読⑪ 13. 『秘蔵宝鑑』上巻の素読⑫ 14. 『秘蔵宝鑑』上巻の素読⑬ 15. 講義の総括
	学期 前期
	単位数 2
	担当者 中村本然
	学生に対する評価 出席点20%、平常点20%、試験60%とし、総合的に評価する。
	テキスト 『十巻章』高野山大学出版部
	参考書・参考資料等 中川善教著『漢和対照十巻章』高野山出版社
	その他

科目名 十巻章素読Ⅱ	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：新・旧の漢字に関する区別や理解ができ、漢文を読めるようになることや高野山の伝統的な読み方に熟達することを目的とする。 テーマ：『秘蔵宝鑑』中巻・下巻の素読
	授業の概要 前期の「十巻章素読」と同様、真言宗で古来から行われてきた方法によって、弘法大師の思想に直接触れることにする。
	授業計画 1. 講義内容の説明 2. 『秘蔵宝鑑』中巻の素読① 3. 『秘蔵宝鑑』中巻の素読② 4. 『秘蔵宝鑑』中巻の素読③ 5. 『秘蔵宝鑑』中巻の素読④ 6. 『秘蔵宝鑑』中巻の素読⑤ 7. 『秘蔵宝鑑』中巻の素読⑥ 8. 『秘蔵宝鑑』中巻の素読⑦ 9. 『秘蔵宝鑑』中巻の素読⑧ 10. 『秘蔵宝鑑』下巻の素読⑨ 11. 『秘蔵宝鑑』下巻の素読⑩ 12. 『秘蔵宝鑑』下巻の素読⑪ 13. 『秘蔵宝鑑』下巻の素読⑫ 14. 『秘蔵宝鑑』下巻の素読⑬ 15. 講義の総括
	学期 後期
	単位数 2
	担当者 中村本然
	学生に対する評価 出席点20%、平常点20%、試験60%とし、総合的に評価する。
	テキスト 『十巻章』高野山大学出版部
	参考書・参考資料等 中川善教著『漢和対照十巻章』高野山出版社
	その他

科目名 漢字Ⅰ＋漢字Ⅱ	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：楷書体のそれぞれの法帖を自分の目で比較分析し、その後自分で選んだ書風に創作表現する。後期は、楷書体以前の文字のそれぞれの特徴をつかみ、比較した法帖を自分の目で分析し、最後は自分で選んだ書風に創作表現する。 テーマ：【前期】1回生……唐代楷書：顏真卿『多寶塔碑』、褚遂良『雁塔聖教序』。 2回生以上……北魏系楷書『張猛龍碑』、『張猛龍碑』。 【後期】3回生（篆書）……秦代『嶧山刻石』、清代金石類『白氏草堂記』、清代吳興棧『蓮子蓮石銘』、 2回生以上（隷書）……『熹寧碑』、『熹寧碑』、『石門頌』（三点の中から二点選ぶ）。
	授業の概要 本講義は基本的に古典臨書を模範とし、形臨、背臨を経て、それぞれが切實な練習し作品制作を行う。方法としては、国内の他大学にはない日本と中国の書道をミックスした指導を行う。 後期は、前期の楷書の授業で学習した方法を応用し、更に時代を遡った書体を学ぶ。それぞれの時代に合った用筆録の修練並びに精神的鍛錬を兼ねる。学生間の切磋琢磨による鑑賞眼及び技術の向上をはかる。
	授業計画 【前期】 1. オリエンテーション2～5、顔真卿『多寶塔碑』(二回生以上は『張猛龍碑』)の反復臨書。 6～9. 褚遂良『雁塔聖教序』(二回生以上は『張猛龍碑』)。※前半半紙臨書作品の提出。 10. 半紙を2枚準備し、半紙各1枚6文字書きに折り、各行ごとに顔真卿『多寶塔碑』、褚遂良『雁塔聖教序』を書き比べる。 11. 半切の面仙紙(半紙をついで構わない)を準備し、3行各12文字書きに折り、今度は2つのそれぞれ楷書体をランダムに臨書する。その後互評会を行い、法帖を見ずにそれぞれの文字がどの書風を写しているかを言い当てる。(個々で制作者の書風の分析力と技術が分かる、且つ批評者の鑑賞眼の高性が分かる。) 12. 自分で法帖を1つに絞って臨書する。 13～15. まだ臨書研究が足りないものは再度臨書に戻り(よくなったら創作への指導をする)、臨書能力の高いものは「唐」李白『春夜洛城聞笛』(七言絶句)の創作に移る。最後は互評会と後半の作品提出。 【後期】 1～4. 秦代『嶧山刻石』(二回生以上は『熹寧碑』)の反復臨書。 5～7. 清代金石類『白氏草堂記』、『石門頌』の中から一点選択の反復臨書。 8～10. 清代吳興棧『蓮子蓮石銘』(二回生以上は『熹寧碑』、『張猛龍碑』)の中から別のものを一点選択の反復臨書。 ※前半半紙臨書作品の提出。 11. 半紙を3枚準備し、半紙それぞれ『嶧山刻石』、『白氏草堂記』、『蓮子蓮石銘』(二回生以上は『熹寧碑』、『張猛龍碑』、『石門頌』)の中から二点選択の書き比べる。 12. 半切の面仙紙(半紙をついで構わない)を準備し、3行各12文字書きに折り、今度は3つのそれぞれの篆書体(二回生以上は隷書体)をランダムに臨書する。その後互評会を行い、鑑賞者が法帖を見ずにそれぞれの文字がどの書風を写しているかを言い当てる。(個々で制作者の書風の分析力と技術が分かる、且つ批評者の鑑賞眼の高性が分かる。) 13～15. まだ臨書研究が足りないものは再度臨書に戻り(よくなったら創作への指導をする)、臨書能力の高いものは指定した内容の創作に移る。最後は互評会と後半の作品提出。
	学期 前期
	単位数 2+1
	担当者 野田悟
	学生に対する評価 出席(30%) 作品提出(70%) 適宜小テストを行なう。 1/3以上欠席者は評価しません。
	テキスト プリント
	参考書・参考資料等 古筆全般・かな字典 後期は古筆(三色紙・高野切第2種)
	その他 ・実習科目は出席が大事です。出席して、数多く書かなければ上達しません。地道な努力と粘り強い意志をもって参加して下さい。 ・後期を履修できるのは、前期を履修した者に限ります。 ・後期は前期よりかなり難しくなりますが、挑戦する気持ちを強くもって出席して下さい。書道は一朝一夕に上達するものではないので「継続は力なり」を信じて粘り強く実習に取り組んでください。

科目名 かなⅠーⅡ	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：【前期】「かな」成立の歴史を知り、実習を通して行書きのかな創作ができることを目標とする。 【後期】前期で身につけた技術をより高め「ちらし書き」の創作、及び古筆の臨書技術を身につけることを目標とする。 テーマ：【前期】細筆の使い方を身につけ、かなの美を知る。 【後期】「ちらし書き」による白と黒の美の世界を表現する。古筆にそれを見る。
	授業の概要 【前期】日本独自の文字「かな」の成立の歴史を知り、その字母を覚える。かなの技術を身につける。 【後期】かな独自の構成法を知り、それを身につけ、その美が「余白」「流麗」「簡素」であることを知るために粘り強く実習する。
	授業計画 【前期】 1. 講義目標・概要の解説 2. かな成立の歴史を解説 3. 「いろは歌」による単体練習・字母説明 4. 連綿の解説・実習 5. 変体がな解説・実習 6. 和歌一首(行書の実習) 7～11. 手本No.1～No.4実習・添削指導 12～15. 行書き創作の解説・実習・添削指導 【後期】 1. 「ちらし書き」の解説・実習 2～5. 「ちらし書き」の様々な形を手本をもとに練習 6～10. 「ちらし書き」作品の創作 11～15. 古筆・高野切の解説 高野切第1種・第3種の原寸大臨書
	学期 前期
	単位数 1+1
	担当者 山本圭子
	学生に対する評価 出席(30%) 作品提出(70%) 適宜小テストを行なう。 1/3以上欠席者は評価しません。
	テキスト プリント
	参考書・参考資料等 古筆全般・かな字典 後期は古筆(三色紙・高野切第2種)
	その他 ・実習科目は出席が大事です。出席して、数多く書かなければ上達しません。地道な努力と粘り強い意志をもって参加して下さい。 ・後期を履修できるのは、前期を履修した者に限ります。 ・後期は前期よりかなり難しくなりますが、挑戦する気持ちを強くもって出席して下さい。書道は一朝一夕に上達するものではないので「継続は力なり」を信じて粘り強く実習に取り組んでください。

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：釈尊の思想とその生涯についての基礎知識の養成 テーマ：釈尊の思想とその生涯を概観することによって、初期仏教の思想と歴史についての知識を深める。
	釈尊の生涯 (別)
学期	後期
単位数	2
担当者	前谷 彰
授業の概要 仏教の開祖であるゴータマブツダ (釈尊) の思想を、まずは「スッタニパータ」から抽出することによって概観し、次にいくつかのニカーヤ文献における伝記記事を中心にして釈尊の生涯について概観する。	
授業計画 1. オリエンテーション 2. 『スッタニパータ』「蛇の章・犀の角」を読み、様々な観点から解説を行う。 3. 『スッタニパータ』「蛇の章・慈しみ」を読み、同じ作業を行う。 4. 『スッタニパータ』「小なる章・宝」を読み、同じ作業を行う。 5. 『スッタニパータ』「小なる章・タンミカ」を読み、同じ作業を行う。 6. 『スッタニパータ』「大いなる章・つとめはげむこと」を読み、同じ作業を行う。 7. 『スッタニパータ』「大いなる章・矢」を読み、同じ作業を行う。 8. 『スッタニパータ』「大いなる章・二種の観察」を読み、同じ作業を行う。 9. 第8回の講義の続き。 10～14回 いくつかの伝記記事を紹介・解説することによって、釈尊の生涯を概観し、釈尊像についての基本的な理解を深める。 15. 学習した内容に対する質問や意見を聞き、総まとめをする。	
テキスト 毎時間必要なコピーを配布する。	
参考書・参考資料等 必要に応じて紹介する。	
学生に対する評価 出席率(1回欠席で3点減点)と学期末試験とで総合的に評価する。	
その他	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：真言宗の開祖・空海の62年にわたる生涯のアウトラインを理解する。 テーマ：空海の生涯とその時代
	弘法大師空海の生涯 (別)
学期	後期
単位数	2
担当者	武内 孝善
授業の概要 9世紀のはじめ唐にわたり、最新の仏教=密教を持ちかえって体系化し、真言宗の開祖となった空海。その62年にわたる生涯には、まだ解明されていない点が多くありません。一方、解決済みとみなされてきた事跡にも疑わしい点があります。そこで、講義では空海が活躍した時代がどのような時代であったかを概観しつつ、従来の説を徹底的に検証し、先入観を排した新しい空海像をご一緒に考えていきたい。	
授業計画 1. はじめに—空海伝研究の現状と課題— 2. 基本的な参考文献 3. 誕生地と誕生年次 4. 空海の家系—佐伯直氏と阿刀氏— 5. 若き日の修行 6. 出家と入唐 7. 恵果和尚からの受法 8. 最澄との交友 9. 最澄との決別 10. 高野山の開創 11. 都における活躍 12. 綜芸種智院の開創 13. 最晩年の空海 14. 空海の最期 15. 大師号の下賜と入定信仰	
テキスト 毎時間、プリントを配布する。	
参考書・参考資料等 高木神元『空海—その生涯と周辺—』吉川弘文館 竹内信夫『空海—弘仁のモダニスト—』ちくま新書 武内孝善共著『あなただけの弘法大師空海』小学館 松長有慶監修『まんが 空海』小学館 武内孝善『弘法大師 伝承と史実—絵伝を読み解く—』朱鷺書房	
学生に対する評価 授業への参加度(出席した上で積極的に質問等する)50%。学期末のレポート50%。	
その他 ①空海伝にはまだ定説はありません。新しい空海発見の旅に、あなたも参加してください。 ②積極的に講義に参加してほしい。疑問をもったらその場で解決しよう。質問を待っています。 ③海の伝記を最低3冊は読もう。	

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標： 【前期】梵字悉曇の基礎知識の修得 【後期】梵字悉曇(応用編)・真言、陀羅尼の書法実践 テーマ： 【前期】梵字悉曇の基礎知識 【後期】梵字悉曇の応用																																
	梵字悉曇Ⅱ / 梵字悉曇BA (別)																																
学期	前年																																
単位数	2																																
担当者	齋藤 天譽																																
授業の概要 【前期】摩多・体文・切継など、書法を実践しながら基礎知識を修得する。 【後期】前期で修得した文字を基本に、常用經典にある真言・陀羅尼を学び、その書法を実践する。																																	
授業計画 <table border="0"> <tr> <td>【前期】</td> <td>【後期】</td> </tr> <tr> <td>1. 年間授業計画の説明</td> <td>1.</td> </tr> <tr> <td>2. 梵字悉曇の歴史と筆記用具(1)</td> <td>2.</td> </tr> <tr> <td>3. 梵字悉曇の歴史と筆記用具(2)</td> <td>3.</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>4.</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>5.</td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>6.</td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>7. 常用經典所載の真言・陀羅尼</td> </tr> <tr> <td>8. 文字の修得</td> <td>8. 塔婆の書様</td> </tr> <tr> <td>9. 字母五十一字(摩多・体文)</td> <td>9. 葬儀に用いる梵字</td> </tr> <tr> <td>10. 悉曇十八章(切継について)</td> <td>10. 以上の書法を実践する。</td> </tr> <tr> <td>11.</td> <td>11.</td> </tr> <tr> <td>12.</td> <td>12.</td> </tr> <tr> <td>13.</td> <td>13.</td> </tr> <tr> <td>14.</td> <td>14.</td> </tr> <tr> <td>15.</td> <td>15.</td> </tr> </table>		【前期】	【後期】	1. 年間授業計画の説明	1.	2. 梵字悉曇の歴史と筆記用具(1)	2.	3. 梵字悉曇の歴史と筆記用具(2)	3.	4.	4.	5.	5.	6.	6.	7.	7. 常用經典所載の真言・陀羅尼	8. 文字の修得	8. 塔婆の書様	9. 字母五十一字(摩多・体文)	9. 葬儀に用いる梵字	10. 悉曇十八章(切継について)	10. 以上の書法を実践する。	11.	11.	12.	12.	13.	13.	14.	14.	15.	15.
【前期】	【後期】																																
1. 年間授業計画の説明	1.																																
2. 梵字悉曇の歴史と筆記用具(1)	2.																																
3. 梵字悉曇の歴史と筆記用具(2)	3.																																
4.	4.																																
5.	5.																																
6.	6.																																
7.	7. 常用經典所載の真言・陀羅尼																																
8. 文字の修得	8. 塔婆の書様																																
9. 字母五十一字(摩多・体文)	9. 葬儀に用いる梵字																																
10. 悉曇十八章(切継について)	10. 以上の書法を実践する。																																
11.	11.																																
12.	12.																																
13.	13.																																
14.	14.																																
15.	15.																																
テキスト 見玉義隆著『梵字必携』朱鷺書房 中川善教編『真言宗常用諸経要聚』																																	
参考書・参考資料等 静慈園著『梵字悉曇』朱鷺書房																																	
学生に対する評価 出席80% 作品提出20%																																	
その他 筆と半紙を準備(授業の最初に説明します)。																																	

科目名	漢文Ⅰ	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：返り点を正しく使う能力を養い、漢文訓読の基礎を身に付けることを到達目標とする。 テーマ：漢文訓読の基礎（入門）
学期	前期	授業の概要 旧漢字を正しく書く練習、漢文を返り点のとおりに書き下し文にする練習、書き下し文のとおりに返り点を打つ練習を繰り返す。 予習が必ず必要である。 受講生は、板書によって予習の成果を発表しなければならない。
単位数	2	授業計画 1. 返り点の基本練習（1） 2. 返り点の基本練習（2） 3. 返り点の基本練習（3） 4. 漢文を返り点のとおりに書き下し文にする練習（1） 5. 漢文を返り点のとおりに書き下し文にする練習（2） 6. 漢文を返り点のとおりに書き下し文にする練習（3） 7. 漢文を返り点のとおりに書き下し文にする練習（4） 8. 漢文を返り点のとおりに書き下し文にする練習（5） 9. 漢文を返り点のとおりに書き下し文にする練習（6） 10. 漢文を書き下し文のとおりに返り点を打つ練習（1） 11. 漢文を書き下し文のとおりに返り点を打つ練習（2） 12. 漢文を書き下し文のとおりに返り点を打つ練習（3） 13. 漢文を書き下し文のとおりに返り点を打つ練習（4） 14. 漢文を書き下し文のとおりに返り点を打つ練習（5） 15. 漢文を書き下し文のとおりに返り点を打つ練習（6）
担当者	南 昌宏	テキスト プリントを配布する。 参考書・参考資料等 特になし。
		学生に対する評価 授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする（『学生手帳』参照）。 遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。出席は点数化しない。 期末テストで100%評価する。 その他

科目名	漢文Ⅱ	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：訓点を使って漢文を訓読する能力を養い、漢文法の基礎を身に付けることを到達目標とする。 テーマ：漢文訓読の基礎（初級）
学期	後期	授業の概要 市販の漢文テキストを使用する。1回に数ページをこなすことで、1冊すべてをやり遂げる。 予習が必ず必要である。 受講生は、板書によって予習の成果を発表しなければならない。
単位数	2	授業計画 1. 送りがな・返り点の練習をする。 2. 返り点・助字の練習をする。 3. 漢文の構造の練習をする。 4. 書き下し文・返読文字の練習をする。 5. 再読文字の練習をする。 6. 再読文字の練習をする。 7. 簡単な否定と禁止の練習をする。 8. 部分否定と特殊な否定の練習をする。 9. 二重否定の練習をする。 10. 使役・受身の練習をする。 11. 疑問の練習をする。 12. 反語の練習をする。 13. 比較・選択・仮定の練習をする。 14. 筆記試験 15. 答案返却
担当者	南 昌宏	テキスト 林欣生編『書き込み式20日間完成 漢文〔高校初級用〕』（日栄社）生協で購入。 参考書・参考資料等 特になし。
		学生に対する評価 授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする（『学生手帳』参照）。 遅刻・早退は2分の1欠席と計算する。出席は点数化しない。 期末テストで100%評価する。 その他

科目名	密教の到達目標及びテーマ 到達目標：密教に関する基本的な理解を培うことを目的とする。 テーマ：密教の基礎知識の養成	
学期	前期	授業の概要 インドにおいて発生した密教は、善無畏三蔵や金剛智三蔵によって、唐代の中国に伝えられるが、思想として体系化されるまでにいたらない。弘法大師空海によって確立されることになる（真言）密教の特徴を概観する。
単位数	2	授業計画 1. 講義内容の説明 2. 密教・真言宗の意味 3. 密教の分類 4. 密教の源流 5. 仏教のなかでの密教の発展過程 6. 密教経典の分類 7. 密教経典の特色 8. 密教経典の訳出 9. 中国密教の成立 10. 奈良時代の密教 11. 密教思想の組織化 12. 真言密教の教判 13. 顕密二教の教判① 14. 顕密二教の教判② 15. 講義の総括
担当者	乾 仁志	テキスト 勝又俊教著「密教入門」春秋社 参考書・参考資料等 高神覚昇著「密教概論」大法輪閣 金岡秀友著「密教の哲学」講談社学術文庫
		学生に対する評価 試験70%、平常点30% その他

科目名	密教の到達目標及びテーマ 到達目標：密教に関する基本的な理解を培うことを目的とする。 テーマ：密教の基礎知識の養成	
学期	後期	授業の概要 インドにおいて発生した密教は、善無畏三蔵や金剛智三蔵によって、唐代の中国に伝えられるが、思想として体系化されるまでにいたらない。弘法大師空海によって確立されることになる（真言）密教の特徴を概観する。
単位数	2	授業計画 1. 講義内容の説明 2. 十住心の思想の構成 3. 十住心思想の特徴 4. 真言密教の仏陀観① 5. 真言密教の仏陀観② 6. 曼荼羅の成立と意味 7. 四種曼荼羅 8. 真言密教の人間観 9. 心性本浄思想の源流 10. 菩提心戒（三昧耶戒）を保つ 11. 浄菩提心を観ずる観法 12. 四重禁戒 13. 即身成仏思想 14. 密教の特性 15. 講義の総括
担当者	乾 仁志	テキスト 勝又俊教著「密教入門」春秋社 参考書・参考資料等 高神覚昇著「密教概論」大法輪閣 金岡秀友著「密教の哲学」講談社学術文庫
		学生に対する評価 試験70%、平常点30% その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：インド・チベットの密教の歴史に関する基礎的な知識を身につける。 テーマ：インド・チベット密教史
密教史概説Ⅰ	
授業の概要	インド密教がどのように形成され、発展したか。そしてそれがどのような過程を経てチベットに伝えられ、チベット密教として展開したか。チベット密教の特色は何か。これらの点について映像などをまじえながら立体的に講義する。
授業計画	1. イントロダクション 2. インド・チベット仏教における密教経典分類法 3. インド初期密教 萌芽から形成へ 4. インド中期密教 組織化の時代1 5. インド中期密教 組織化の時代2 6. インド後期密教 新たな展開1 7. インド後期密教 新たな展開2 8. 古代チベット王国と仏教の伝来 9. 仏教国教化への道のり 10. 古代チベット王国の崩壊と仏教の復興 11. 諸宗派の形成1 12. 諸宗派の形成2 13. プトランとツォンカバ 14. ゲルク派の覇権 15. ダライ・ラマとは何か
学期	
前期	
単位数	
2	
担当者	テキスト 奥山直司・松本栄一『チベット [マンダラの国]』小学館 参考書・参考資料等 教室でそのつど紹介する。
奥山直司	学生に対する評価 出席点30%（遅刻3回で1欠席とみなす）、授業参加状況30%、期末試験40% その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：日本密教の歴史を知る テーマ：日本密教（真言密教、天台密教）の歴史を知る
密教史概説Ⅱ	
授業の概要	真言宗の歴史をテキストにもとづきながら概説する
授業計画	1. オリエンテーション 2. 密教の受容基盤 3. 密教の受容基盤 4. 真言宗の成立 5. 真言宗の成立 6. 真言宗の分化 7. 天台の密教 8. 天台の密教 9. 覚鑿の改革 10. 鎌倉時代の密教 11. 鎌倉時代の密教 12. 室町時代の密教 13. 室町時代の密教 14. 江戸期の密教 15. まとめ
学期	
後期	
単位数	
2	
担当者	テキスト 参考書・参考資料等 松長有慶『密教の歴史』（平楽寺書店）
佐藤隆彦	学生に対する評価 期末レポート70パーセント、出席30パーセント その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：仏教の交流と周辺諸国における思想的文化的受容を概観する。 テーマ：仏教の思想と文化
仏教学概説Ⅰ	
授業の概要	基本的には、教科書に沿って、インドにおける仏教、アジア諸国への伝播、中国仏教と日本的展開を概観し、各分野への導入を図りたい。 前期セメスターには、特にインド仏教の概観と東南アジア及びチベット文化圏の受容形態について見て行く。
授業計画	序. 仏教学は何を学ぶのか 序-1. 伝統的な仏教の学び方 序-2. 学術としての仏教学 Ⅰ. バラモン文化と沙門の思想 Ⅱ. 釈迦牟尼世尊とその教説 Ⅲ. 初期仏教教団と部派の思想 Ⅳ. 大乘仏教と様々な教理体系 Ⅴ. 大乘仏教における密教の形成 Ⅵ. インド諸思想と仏教の思想的交流 Ⅶ. 周辺諸地域における仏教受容のあり様
学期	
前期	
単位数	
2	
担当者	テキスト 前田恵学『仏教要説—インドと中国—』、山喜房仏書林、¥1,365 ※生協あつかい 参考書・参考資料等 平川彰『インド 中国 日本 仏教通史』、春秋社、¥2,625 ※生協あつかい
生井智紹	学生に対する評価 各講時における発表と論議への参加態度を50%、定期試験の成果を50%とし、合計60/100をもって合格とする。 その他

科目名	授業の到達目標及びテーマ 到達目標：仏教の交流と周辺諸国における思想的文化的受容を概観する。 テーマ：仏教の思想と文化
仏教学概説Ⅱ	
授業の概要	基本的には、教科書に沿って、インドにおける仏教、アジア諸国への伝播、中国仏教と日本的展開を概観し、各分野への導入を図りたい。 後期セメスターには、特に日本仏教に至るまでの中国経由の仏教の受容形態について見て行く。
授業計画	序. 諸地域における仏教伝播と多様な受容形態 Ⅰ. 北伝仏教の特色 Ⅱ. 羅什三蔵の翻訳事業と様々な宗 Ⅲ. 唐代の仏典翻訳と新たな教学 Ⅳ. 朝鮮半島と日本における仏教需要のあり様 Ⅴ. 密教と平安仏教 Ⅵ. 鎌倉新仏教の成立と旧仏教 Ⅶ. 仏教と近代、現代日本
学期	
後期	
単位数	
2	
担当者	テキスト 前田恵学『仏教要説—インドと中国—』、山喜房仏書林、¥1,365 ※生協あつかい 参考書・参考資料等 平川彰『インド 中国 日本 仏教通史』、春秋社、¥2,625 ※生協あつかい
生井智紹	学生に対する評価 各講時における発表と論議への参加態度を50%、定期試験の成果を50%とし、合計60/100をもって合格とする。 その他